

臨床検査技師のための 血算の診かた

岡田 定(著)

東大病院検査部副臨床検査技師長

常名政弘

血液検査技師、日当直を担当する 臨床検査技師は必見！ 側に置いておきたい一冊

血液学に関する書籍は数多く目にしますが、その中で血液検査データの診かたに関する書籍は数えるほどしか見かけません。また研修会、講演会などで血液検査データの診かたに関する講演は近頃多く行われているテーマではありますが、その内容が書籍になったのは本書が初めてではないかと思われます。名古屋にて岡田定先生(聖路加国際病院)のご講演を聴講した機会がありましたが、まさに講演会の内容がまとまった書籍です。

本書を拝読した感想を示します。

- ・全てのテーマについて症例形式で書かれており、臨床症状、検査データの解釈のポイント、どう考えるか、追加すべき検査や既往歴の振り返り、最終診断、と症例を考える流れができていて理解しやすい。
- ・文章だけではなく、イラストや表が多く、さらにきれいな細胞画像やCT画像なども含まれており、文章の表現がやさしくわかりやすく、新人技師であっても読みやすい。
- ・検査技師から医師へのアプローチ方法がわかりやすく書かれている。また著者が臨床医であり、臨床側が検査データのどの部分を求めているのかがわかりやすく書かれている。検査技師からの一方的な報告ではなく、医師が見逃しやすい点についても書かれているため、ポイント

をついた報告をするためのコツがわかる。

- ・血算のデータだけではなく、生化学検査や凝固検査のデータについても記載されており、臨床検査技師として検査データをどのように総合的に判断していくかについても勉強できる。
- ・コラムがたくさんあって読み応えがあり、内容もバラエティに富んでいて面白い。特に日常検査で遭遇し得る「偽性〇〇」に関するテーマが複数あり、臨床検査技師が臨床側にデータを送信する前に気が付きたいデータや生化学検査や血液ガスなど血算以外のデータの見抜き方まで記載されている。さらに、患者さんとのやりとりなど、医師ならではの話も交えてあり、医療従事者としても読んでおきたい内容が多い。

最後に、「コラム 04」(p.46)にも書かれてますが、「健やかに生きるために」どうすべきかの4つのポイント、(1)食事に気を付けること、(2)日中は努めて体をよく動かすこと、(3)夜は十分に睡眠をとること、(4)ストレスを溜めないこと、と患者さんに指導されているそうです。

文章の表現も含め岡田先生の優しいお人柄がうかがわれる一冊と思います。



●B5/頁 184/2017 年
定価：本体 3,500 円＋税
[ISBN978-4-260-02879-0]
医学書院 刊